

# 巻頭言

## 大地の時間・人の時間 ～ジオ・紀伊半島～

衛星放送協会 会長  
元NHK 副会長

小野 直路



「太陽系に土地勘があります。」科学番組のディレクターをしていた当時、気に入って使っていたキャッチフレーズです。NHK入局後、たまたま科学番組に配属になり、科学番組ディレクターとして人生の過半を過ごしてきました。その一つの帰結というべきか、2017年7月、「列島誕生 ジオ・ジャパン」というNHKスペシャルで紀伊半島の地質的歴史を描いた番組に関わる機会に恵まれました。

その話は後回しにして、私が科学番組ディレクターとなった1970年代後半から80年代は、アメリカ航空宇宙局（NASA）の惑星探査が盛んに行われていた時代でした。パイオニア、マリナー、ボイジャーなど惑星探査の名機が各惑星を訪れて、人類が見たことのなかった太陽系惑星の鮮明な映像を次々と送り届けてきました。若き科学番組ディレクターの私は、その衝撃的な映像に夢中になって、片っぱしから惑星探査を番組化していました。それで、「太陽系に土地勘」が出来たというわけです。

同じ時期、NHKの別のグループが「動く大地の物語」という日本列島の歴史を描くシリーズを制作しました。若いピカピカの石坂浩二さ

んがキャスターで、世に出たばかりの「プレートテクトニクス」理論に基づき、日本列島の地質的歴史を紹介するというものでした。番組は大評判となって、科学担当としては正直、やられたと思ったものでした。そこで、私たち科学番組の「宇宙チーム」とこの「動く大地チーム」が手を組んで制作したのが、「地球大紀行」（1987年放送）でした。地球46億年の歴史を最新の科学に基づき12本シリーズで描いて、大当たりとなりました。私にとっては、忘れられない番組です。

その後も、私は宇宙シリーズなどを担当しましたが、内心「地球大紀行」の次は「日本列島」をやりたいと考えていました。しかし、残念ながら「動く大地の物語」が大当たりしたばかりで、当分の間、自分にはチャンスが来ないという状況でした。そして、そんな思いとは裏腹に私はその後、NHKの行政職に転じて、編成、人事、関連事業などを担当し、直接番組に参加することはおぼつかない立場で後半のNHK人生を過ごしました。

以来30年近い歳月が過ぎ、2014年2月、私は「副会長」を最後にNHKを退職しました。

いささか時間的な余裕が出来ると、ムクムクと頭をもたげてきたものがありました。もう一度、「日本列島」を番組でやってみたいという思いです。そこで後輩諸氏と相談し、実現したのがNHKスペシャル「列島誕生 ジオ・ジャパン」です。私としては、中断してきた「地球大紀行」から「日本列島」にいたるテーマの再開という意味合いもありました。その「ジオ・ジャパン」の中で、とりわけ望外の喜びであったのは、紀伊半島で起きた1400万年前のカルデラ噴火を描くことが出来たことです。南紀出身者としては、当然大満足でしたが、同僚たちからは「小野さん、さすがにふるさと、紀伊半島が分厚かったですね」と冷やかされ、少々閉口しました。しかし、出身がどこであろうと、紀伊半島の大激動は日本列島誕生直後のドラマとしては番組に不可欠のものであったと確信しています。

「ジオ・ジャパン」の中で紹介した紀伊半島・太古の大激動は概略、以下のような話です。元々紀伊半島の大地は、海底に積もった地層が大陸の縁に集まった「付加体」と呼ばれる古い岩石で出来ています。3000万年ほど前、その「付加体」が大陸から切り離されて移動し、現在の位置に来たとされています。およそ1500万年前のことです。その当時は、どちらかというところ平坦な陸地だったようです。そして、凡そ1400万年前、この太古の紀伊半島で巨大なカルデラ噴火が起きました。現在、点々と残る巨石群、「古座川の一枚岩」「那智の滝」の岩壁や新宮市神倉神社の「ゴトビキ岩」などは、その巨大カルデラ噴火のマグマが冷えて固まった岩石だといわれています。現在も地下には当時のマグマが冷えた花崗岩という岩石が残されています。険しい山々が続く紀伊半島は、この巨大な花崗岩によって下から力強く支えられているわけです。最新の地質学研究から明らかにされてきたものです。

私は紀伊半島の突端・串本町に生を受け、山や磯を遊び場にしてきました。その磯には鋭く傾斜した地層がそそり立っていました。また、

白浜や勝浦の温泉も常に身近な存在でした。なぜ磯には傾いた地層が延々と続くのか、また、近くに火山もないのになぜ白浜や勝浦に温泉があるのか、子供心に疑問を感じてきたものです。今回、「ジオ・ジャパン」で、紀伊半島の地質的歴史を取り上げたことで、こうした疑問に明確な答えを得ました。磯に続く斜めに尖った地層は、太古の「付加体」でした。また、白浜や勝浦に温泉があるのは、大噴火の余熱ともいえるものだったのです。長年の個人的疑問は解けました。私なりの紀伊半島への回帰であったといえるかと思います。

巨大カルデラ噴火が起きたのは1400万年前、人類がこの地球上に登場するはるか昔の出来事です。大自然は誠に長い時間をかけて作られ、いま私たちの人生の舞台となっています。自然の長い時間に比べると人間に与えられた100年は、あまりにも短いものです。しかし、紀伊半島の大地の成り立ちを知ったことで生まれ育った土地は、私にとって一層身近なものになりました。おそらく、それは自分が何ものであるかを知る行動、例えば家系図作りなどにも似たもののように思います。大地の歴史を知ること、己を知ること、より深くふるさとを知ることと一つながりのこととして私には感じられます。

「ジオ・ジャパン」放送以来、古座川の一枚岩には訪問者が増えたと伝え聞いています。ふるさとの劇的な地質的歴史に触れて、大地の歴史と自分とのつながりを、私と同じように感じて下さる人が増えたとすれば嬉しい限りです。まだ、古座川の一枚岩をご覧になったことのない方には、ぜひ一度、足を伸ばして古座川の清流を遡られることをお勧めします。あの巨岩の圧倒的な質量の前に立てば、1400万年前、ふるさとの大地を生んだ太古の鼓動をありありと感ずることが出来るにちがいありません。紀伊半島の奥深い自然は想像を絶する激動のドラマを私たちに語りかけています。